

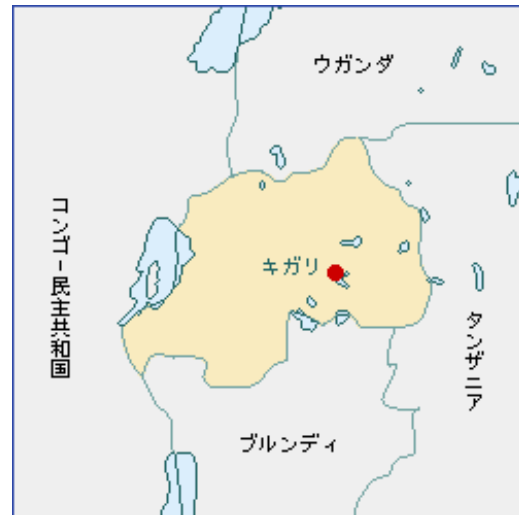


ルワンダ共和国概況

2014年12月
在ルワンダ日本国大使館

1 一般事情

- (1)面積: 2万6. 338k m²(四国の約1. 5倍)
- (2)人口: 1, 180万人(2013年, UNFPA)
- (3)首都: キガリ(Kigali)
- (4)民族: フツ族(85%), ツチ族(14%), トウワ族(1%)
- (5)言語: ルワンダ語, 英語, 仏語
- (6)宗教: キリスト教(94%), イスラム教(4. 6%)他
- (7)国祭日: 7月4日(解放記念日)



(8)略史:

17 世紀	ルワンダ王国建国
1889年	ドイツ保護領 (第一次大戦後はベルギーの信託統治領)
1961年	王政に関する国民投票(共和制樹立を承認) 議会在カイバンダを大統領に選出
1962年	ベルギーより独立
1973年	クーデター発生(ハビャリマナ少将が大統領就任)
1990年10月	ルワンダ愛国戦線(RPF)による北部侵攻
1993年 8月	アルーシャ和平合意
1994年 4月	ハビャリマナ大統領暗殺 同事件発生をきっかけに「ルワンダ大虐殺」発生(～94年6月)
7月	ルワンダ愛国戦線(RPF)が全土を完全制圧 新政権樹立(ビジムング大統領, カガメ副大統領就任)

2000年 3月	ビジムング大統領辞任
4月	カガメ副大統領が大統領に就任
2003年 8月	複数候補者による初の大統領選挙にてカガメ大統領当選
9-10月	上院・下院選挙実施(与党RPFが勝利)
2008年 9月	下院選挙実施(与党RPFが勝利。世界で初めて女性議員が過半数を占める。)
2010年 8月	大統領選挙(カガメ大統領再選)

2 政治体制

- (1)政体: 共和制
- (2)元首: ポール・カガメ大統領(2000年4月就任, 2003年及び2010年再選。)
- (3)議会: 上院(26議席), 下院(80議席)
- (4)与党: ルワンダ愛国戦線(RPF)
- (5)政府(2014年7月組閣)

首相: アナスターズ・ムレケジ

外相: ルイーズ・ムシキワボ



カガメ大統領



ムレケジ首相



ムシキワボ外相

3 内政状況

(1)1994年の大虐殺の爪痕を乗り越えようと, カガメ政権は, 出身部族を示す身分証明証の廃止(94年), フツ族の首相・閣僚の任命(94年), 遺産相続制度改革(女性の遺産相続を許可)(99年), 国民和解委員会・国民人権委員会の設置(99年)など, 国民融和・和解のための努力を行っている。2003年8月の大統領選挙で, カガメ大統領が95%の得票率で勝利(2010年に再選)。また, 同年9-10月の議会選挙においても, 与党RPFが勝利し, カガメ政権は両選挙を経て政権基盤を固めた。

(2)憲法では大統領三選が禁じられているが, 現時点でカガメ大統領は自らの出处進退を明らかにしておらず, 2017年の次回大統領選挙に向けた内政動向が注目されている。

(3)国内的には安定政権である一方で, 現政権は政党活動の自由を制限し, 野党系の政党に対する抑圧的な対応が指摘されている。

(4)カガメ大統領は汚職対策にも力を入れており, 他のアフリカ諸国に比して汚職の少なさ・治安の良さは特筆され, 世銀等からの評価は高い。

4 外交・国防

(1)外交方針： 従来非同盟中立主義が基本路線。冷戦時代は東西両陣営と友好関係を維持してきたが、現在は、経済開発のために先進諸国との協力に重点を置く。また、ルワンダは、国際連合アフリカ連合ダルフル派遣団(UNAMID)などへのPKO要員派遣等を通じ、また、2013年からは国連安保理非常任理事国(任期2年)として、アフリカ地域、主に大湖地域の平和と安定及び紛争予防等の実現に向けた役割を担っている。

(2)軍事力

ア 予算 8,400万米ドル(2013年,世銀)

イ 兵力 陸軍 32,000, 空軍1,000, 予備役2,000

(3)2007年に東アフリカ共同体(EAC)に加盟し、右を中心とする域内統合に参加。特に、ウガンダ及びケニアとの間では3カ国プロジェクト(通関等各種手続の統一化、共通観光査証の導入、鉄道敷設等)を積極的に推進している。東南部アフリカ市場共同体(COMESA)にも加盟し、COMESA自由貿易協定(FTA)に加盟している。また、2009年には英連邦(コモンウェルス)に加盟し、英語圏へのシフトを図っている。

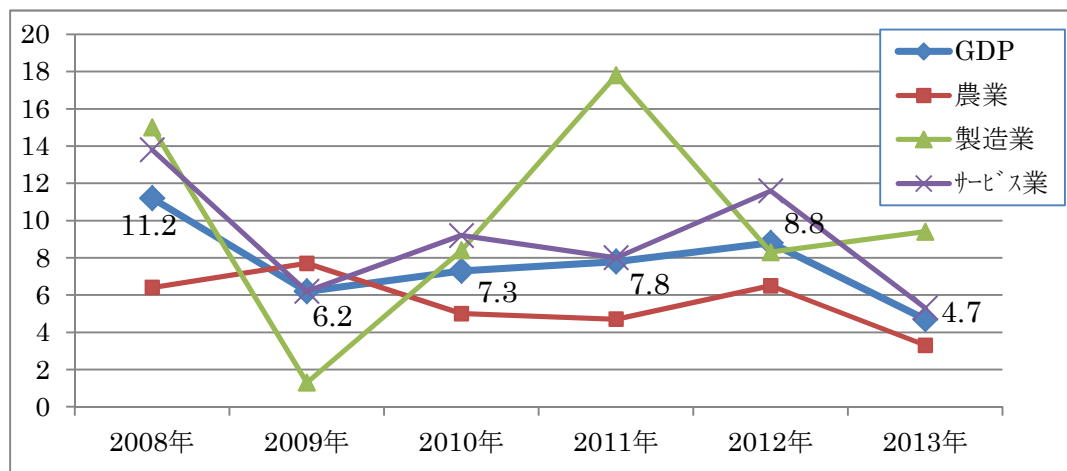
(4)2012年にはコンゴ(民)東部における反政府軍の活動をルワンダ政府が支援しているとの指摘があり、一時コンゴ(民)政府との関係が緊張し、また、一部援助国による経済協力等が停止されたが、現在は再開されつつある。また、ルワンダ政府は、コンゴ(民)東部を拠点とする反ルワンダ武装勢力であるルワンダ解放民主勢力(FDLR)の掃討を繰り返し国際社会に要請している。

5 主要経済指標

GDP	74億米ドル(2013年, 世銀)	
一人当たり GNI	620米ドル(2013年, 世銀)	
経済成長率	4. 7%(2013年, 世銀)	
インフレ率	4. 2%(2013年, 世銀)	
失業率	3. 4% (2012年, NISR)	
総貿易額・主要貿易品目		
	輸出額	5. 9億米ドル(FOB価格) (2012年, EIU)
	主要輸出品目	コーヒー, 茶, 錫, コルタン
	輸入額	19. 7億米ドル (FOB価格)(2012年, EIU)
	主要輸入品目	消費財, 資本財, 中間財, エネルギー
主要貿易相手国		
	輸出	中国(15.4%), コンゴ(民)(10.8%), マレーシア(8.6%), スワジランド(13.9%)(2013年, EIU)
	輸入	ウガンダ(15.9%), ケニア(15.2%), 中国(10.4%), UAE(8.6%)(2013年, EIU)
通貨	ルワンダ・フラン(Rwf)	

為替レート	1米ドル＝700ルワンダ・フラン(2014年11月)
外貨準備高	8.5億米ドル(2012年, EIU)
対外債務残高	15億米ドル(2013年, ルワンダ中央銀行)

GDP成長率



(出所)世界銀行

6 経済状況

(1) 近年年率7～8%の経済成長を遂げ、「アフリカの奇跡」と称されている。2013年のGDP成長率は4.7%と減少したものの、2014年第1四半期は7.4%、第2四半期は6.1%と徐々に回復の兆しが見られる。天然資源は、3T と呼ばれスズ、タンタル及びタングステンがあるが、それ以外に目立ったものはなく、全人口の約7割が農村部に居住し、その内の約8割が農業に従事している。農業がGDPの約3割を占めるが、農民の多くは小規模農家である。そのため、政府は年間20万の農業以外の雇用創出を目標としている。主要作物はコーヒー及び茶であり、高品質化により国際競争力を強化する政策を取っている。一方で、内陸国のために輸送費が高いという問題も抱える。

(2) 2000年、中長期的国家開発計画である「Vision2020」を発表し、科学技術分野での人材資源開発を通じた知識立国を目指す等の目標を掲げている。2007年11月には「経済開発 貧困削減戦略(EDPRS)」を策定。さらに、2013年5月には右貧困削減戦略の次フェーズにあたる「EDPRS 2」を策定し、成長の加速化を目標としている。

(3) ルワンダ政府はビジネス環境整備に力を入れており、世銀の「Doing Business 2015」ではビジネスの行いやすさで189ヶ国中46位、アフリカ諸国内では3位と評価された(注:1位はモリシャス(28位)、2位は南アフリカ(43位))。進行中の大型投資計画として、電力開発(2018年までに現行126MWの発電能力を563MWに増大することを目標としている)、ICT基盤整備、新国際空港及びキガリ・コンベンションセンターの建設がある。政府は、2013年4月に初の外債(約4億米ドルのユーロ債、償還期限10年、利率6.625%)を発行し、同大型投資への資金調達に成功した。ここ数年、海外直接投資(FDI)は増加しており、2013年

は10億米ドルと前年よりも6.3%上昇し、サブサハラ・アフリカ域内では9位の投資額であった。一方で、製造業等の国内産業が未発達であり、恒常的な貿易赤字を解消するような産業の育成、既存輸出品目の高付加価値化等が課題である。

(4)なお、国家予算の約4割弱を外国政府からの政府開発援助(ODA)に依存しており、同国政府にとってODA以外の歳入源確保が課題であり、IMFの政策支援インストルメント(PSI)の下、税収等による歳入増加に取り組んでいる。

(5)他方、近年のGDPに占める税収割合(対GDP比約15%)には改善が見られ、また、安定的なマクロ経済状況及び鉱業における輸出額の増加等の良好な経済実績に鑑み、2013年11月、IMF・世銀による債務持続性分析(DSA)は中リスク国(黄色信号)から低リスク国(緑色)に評価変更された。また、2014年8月、フィッチ・レーティングス社はルワンダの発行体デフォルト格付(IDR)をBからB+へ、9月にはスタンダード・プアーズ社(S&P)が長期・短期の格付け見通しを stable から positive へ引き上げており、国際格付機関による信用格付けも向上している。

7 二国間関係

(1)政治関係

ア 我が国は、ルワンダが独立した1962年7月に国家承認。ルワンダは1979年5月に在京大使館を開設(2000年9月-2004年12月まで閉鎖、2005年1月再開)、我が国は2009年まで在ケニア大使館が兼轄してきたが、2010年1月に在ルワンダ大使館を開設。2011年5月には日ルワンダ友好議員連盟が発足。2012年に外交関係樹立50周年を迎えた。

イ 1994年4～6月の大虐殺事件で国外に避難したルワンダ難民救援のため、我が国は、同年9～12月の間、国際平和協力法に基づき、ザイル共和国(現コンゴ民主共和国)のゴマ等に約400名の難民救援隊・空輸隊等を派遣。

ウ 1965年から6年間、服部正也氏が日銀から出向し、ルワンダ中央銀行総裁を務めた。

(2)経済関係

ア 貿易額・主要貿易品目(2013年、財務省貿易統計):

対日輸出: 2億2,970万円(コーヒー、雑貨類)

対日輸入: 19億8,957万円(自動車、二輪車、医療関連機械)

イ 日系企業: 3社(Organic Solution Rwanda Ltd., Rwanda Nut Company Ltd, i-Wind Consulting)

(3)在留邦人数: 118名(2014年10月)

(4)在日当該国人数: 50名(2012年)

(5)要人往来

ア 往訪(95年以降)	
2005年10月	逢沢外務副大臣
2006年 8月	村田吉隆衆議院議員, 北村誠吾衆議院議員(日 AU 友好議連)
10月	浜田外務大臣政務官

2008年12月	御法川外務大臣政務官
2009年 6月	橋本外務副大臣
2010年 9月	西村康稔衆議院議員(日AU友好議員連盟事務局長)
12月	柳沢光美議員, 米長晴信議員, 佐藤正久議員(ODA 参議院調査団)
2014年 5月	山本財務大臣政務官(アフリカ開発銀行年次総会出席)
8月	三原朝彦, 山際大志郎両衆議院議員(日AU友好議員連盟派遣)
8月	石原外務大臣政務官(貿易・投資促進官民合同ミッション)
イ 来訪(97年以降)	
1997年 4月	カガメ副大統領(外務省賓客), ビララ大蔵・計画大臣
1998年10月	ルイジェマ首相(TICAD II 出席)
2000年 1月	イヤムレムイエ外務大臣(非公式)
2001年12月	カベルカ財務・経済計画大臣(TICAD 閣僚レベル会合)
2003年 9月	マクザ首相, ムリガンデ外務大臣(TICAD III 出席)
2005年 2月	ムジャワマリア初等中等教育担当大臣(フォーラム出席)
4月	カベルカ財務・経済計画大臣
6月	ンシュティ商業産業・投資促進・観光・協同組合大臣(愛知万博)
7月	ムリガンデ外務大臣(外務省賓客)
9月	ムレンジ教育・科学・技術・研究大臣(STS フォーラム出席)
2006年 6月	ムリガンデ外務大臣, ンサンザバガンワ経済計画担当大臣 カレガ産業・投資促進担当大臣
11月	カガメ大統領(実務訪問賓客), カマンジ・インフラ大臣, ムセミナリ協力担当大臣, ンサンザバガンワ経済計画担当大臣
2007年10月	ムレンジ科学・技術・研究大臣(STS フォーラム出席)
2008年 5月	カガメ大統領(TICAD IV)
2010年10月	カマンジ土地・環境大臣(COP10)
2011年 6月	ムシキワボ外務協力大臣(MDGs フォローアップ会合)
11月	ルワンゴムブワ財務・経済計画大臣
2012年10月	ルワンゴムブワ財務・経済計画大臣(IMF 世銀総会)
2013年 6月	カガメ大統領(TICAD V)
2014年 6月	ルグワビザ・ルワンダ開発庁総裁(閣僚級)(日ルワンダ投資セミナー)

(6) 二国間条約・取極 1985年6月 青年海外協力隊派遣取極

2005年1月 技術協力協定

(7) 経済協力(2013年, ODAデータブック)

ア 援助実績(2012年度までの累積)

(ア) 円借款 46.49億円(E/N ベース) ※近年は実績無し

(イ) 無償資金協力 392.20億円(E/N ベース)

(ウ)技術協力 92.34億円(経費ベース)

イ 最近の主要案件(無償資金協力)

- 2010年3月「第二次地方給水計画」(14.35億円)
- 2011年3月「変電及び配電網整備計画」(25.5億円)
- 2011年9月「ルスモ国際橋及び国境手続円滑化施設整備計画」(18.6億円)
- 2014年8月「ンゴマ郡灌漑開発計画」(15.49億円)

(参考)主要援助国(2012/13年, ルワンダ財務・経済計画省, 単位百万ドル)

①米(112), ②英(95), ③オランダ(39), ④日本(32), ⑤ベルギー(29), ⑥ドイツ(24)

(8)文化交流

2012年に外交関係樹立50周年を記念し, キガリ市において和太鼓講演を開催した他, 日本紹介事業等を定期的に開催している。

(了)